

科目名	情報活用概論 [経営] (卒業必修)				
授業形態	講義	学年	1		
開講時期	2021年度 前期	単位数	2		
担当教員	中澤 真				
内容および計画	<p>インターネットの普及によりコンピュータは単なる情報を処理するだけの機械から、情報の収集・伝達という役割も果たすようになり、現在では社会システムの中で不可欠な存在となった。このようにコンピュータは多くの機能を持つ道具であるが、その操作方法のみを学んだのでは意味がない。仕事場あるいは家庭でこの道具を有効に活用するためには、その裏側にある基本的なしくみや考え方を理解することが大事なのである。本講義ではここに力を入れたいと思う。</p> <p>講義の進め方としては、実際にコンピュータを使いながら情報の収集・整理・分析・構成、Webによる情報発信、ネットワークコミュニケーションなど幅広い領域を学んでもらう。さらに、AI、ビッグデータ、IoT、データサイエンスに関する最新の話題についても適宜紹介するので、情報技術への興味・関心を高めてもらいたい。</p>				
1	オリエンテーション ～講義の進め方、約束、講義支援システムの活用方法～				
2	ファイルシステムのしくみとデジタル時代の情報整理術 ～スケジュールからアイデアまで何でも整理～				
3	インターネット時代の情報収集術 ～図書館からインターネットまで、さまざまな資料を使い分ける～				
4	メディアリテラシーとクリティカルシンキング ～情報の真贋や偏りを見極める～				
5	情報検索技術の可能性 ～音楽や絵も検索できる！？～				
6	情報を分析するために (1) ～文字のデータを Excel で整理・分析～				
7	情報を分析するために (2) ～数値データを Excel で整理・分析～				
8	ワープロソフトを用いた論理的な情報の構成 ～「Word」を使えば日本語は上手になる？～				
9	ワープロソフトを用いた視覚的な情報表現 ～自分の考えが的確に伝わるレポート作成～				
10	ワープロソフトを用いた作業の効率化 ～力まかせの作業からの脱却～				
11	Web とソーシャルメディアの活用 ～情報発信とクリティカル・シンキング～				
12	情報化社会における知的財産権 ～特許ビジネスから著作権管理技術まで～				
13	プレゼンテーションのための情報の視覚表現術 ～情報を見える化する～				
14	プレゼンテーション技法 ～心を射るプレゼンテーション～				
15	プレゼンテーションの実践 ～プレゼンテーションスキルを身につける～				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
	『考える 伝える 分かちあう 情報活用力』 第4版	noa 出版	noa 出版	9784908434259	2017

指定した参考書以外に、本学図書館、コンピュータセンター所蔵の各種白書を用いた取り組みも実施する。知の泉である図書館の活用方法も身につけてほしい。				
参考書	[1] 原尻淳一, アイデアを形にして伝える技術, 講談社現代新書, 2011 [2] 近田政博, 学びのティップス大学で鍛える思考法, 玉川大学出版部, 2009 [3] 倉島保美, 論理が伝わる世界標準の書く技術, 講談社, 2012 [4] 清水義範, 大人のための文章教室, 講談社現代新書, 2004 [5] 長谷川一ほか, 大学生のためのメディアリテラシートレーニング, 三省堂, 2015 [6] 板坂元, 考える技術・書く技術, 講談社, 1973 [7] 下村健一, 10代からの情報キャッチボール入門, 岩波書店, 2015 [8] 福井健策ほか, インターネットビジネスの著作権とルール(第2版), 著作権情報センター, 2020 [9] 四禮静子, スペースキーで見た目を整えるのはやめなさい, 技術評論社, 2020 [10] 宮野公樹, 学生・研究者のための使える PowerPoint スライドデザイン, 化学同人, 2009 [11] 森重湧太, 見やすい資料のデザイン入門, インプレス, 2016 [12] 野村直之, 人工知能が変える仕事の未来<新版>, 日本経済新聞出版, 2020 [13] 上野千鶴子, 情報生産者になる, ちくま新書, 2018 [14] 中山真敬, パソコン仕事術の教科書, 技術評論社, 2017			
成績評価				
評価方法				割合(%)
出席				10
レポート				25
プレゼンテーション				20
その他の小課題				30
小テスト				15
学習到達目標	在学中の2年間だけでなく社会に出てからも要求される、コンピュータやネットワークを用いて情報を収集・分析・構成・伝達する情報・メディアリテラシー力を身に付ける。			
先修条件				
実務経験				
その他	授業回数や進捗によって授業計画を変更する場合がある。			